

令和 4 年度 総合情報基盤センター研究開発報告書

2023 年 7 月 3 日

研究開発課題	ウェブアクセシビリティ向上による WEB サイト教材のユニバーサルデザイン		
研究開発代表者	所属	職位	氏名
	建築都市工学部 住居・インテリア学科	教授	香川 治美
研究開発分担者	所属	職位	氏名
研究開発協力者	所属	職位	氏名
研究開発期間	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日		
研究開発成果 ※開発内容の実績を含む	<p>本研究開発の目的は、WEB サイト教材の画面の見やすさや、入力しやすさといった操作性を向上させるために、ウェブアクセシビリティに配慮して、開発教材のインターフェイスを改善することである。</p> <p>申請当初、インターフェイス改善のために、まず WEB サイト教材のソフトウェアを現在の NetCommons 2 から Connect-CMS へ移行し、その移行作業と並行して、2017 年以降、容量が増加し続けているユーザ ID とアクセス数、利用時間、教材コンテンツならびに学生の提出課題の総データの整理と整備を実施する計画であった。しかし移行のための打合せや作業を開始して間もなく、移行前の、総データの整理と整備が必要であり、移行作業と並行して総データの整理と整備を実施することは適切でないと判断した。その理由は、解決すべき課題が、本研究開発が対象とする操作性の問題だけではなく、COVID-19 以降ますます加速する ICT や AI の技術発展も考慮し先を丁寧に見通した上で新システムを構築する必要があるからである。旧システムにおける WEB サイト教材の利用者数や利用回数、動画の活用や、スマートフォンやタブレットといった小型画面のモバイルへの対応、それらに伴うデータ容量も、2017 年当初の想定を遥かに超過していることが明らかになった。そのため、これまでに 2 度、システムのメモリ増設も実施した。</p> <p>そこで本研究開発の申請時の計画を変更し、先を見通した新システム構築に向けて、まず移行前に WEB サイト教材の課題を明らかにするため、学生を対象としたアンケート調査だけでなく 2017 年当時のシステム構築もふりかえることにした。アンケート調査では平成 4 年度 4 月～9 月までの間に 36 点の回答が得られ、例えば、PDF や画像のファイルが表示されないことがある、ブラウザ種類によってはログインできないことがある、画面を大きくしても文字が小さいままになるなど、改善すべきインターフェイスの問題点が明らかとなった。</p>		
開発目的の達成度 (残された課題など)	<p>本研究開発期間内では、新システム移行前の旧システムの WEB サイト教材のソフトウェアにおける 問題点を明らかにし、NetCommons 2 から Connect-CMS へ移行した。新システム移行後、さらなる今後の課題が明らかになった。例えば、課題提出や出欠確認のしやすさといった学生側の操作性と、柔軟な評価方法や課題閲覧といった教員側の操作性を高める機能の検</p>		

討、また、より視認性が高い画面の色の検討である。

なお当初、本件研究で実施計画であった新システム移行後の ウェブアクセシビリティ向上について明らかにするためのヒアリングならびにアンケート調査についても今後の課題として残されたため、達成度は 70%である。